プロジェクトを組織した実践（小学校）

学校名	具体的な取組	成果や課題
高松市立 新塩屋町小学校	**○教育目標達成への参画意識をもつプロジェクトを組織し、学校課題に向けて各プロジェクトが互いに機能し、教職員の共通理解をもって実践できるように職員会等で提案する。** ・現教推進委員会　・生徒指導推進委員会 ・保健給食推進委員会　・就学指導委員会 （生徒指導推進委員会の活動例） ・今月と来月の学校生活目標についての反省と計画と各学級への働きかけ ・気になる児童の実情と今後の対応への共通理解 ・生徒指導上改善すべきことへの提案 （生徒指導担当者、各学年代表、養護教諭、専科）	・定期的・時期的に共通理解をもって対応したり、効率的に運営できたりした。 ・学期ごとに同じ項目の目標を掲げ、目標内容を学期ごとに高めるよう各クラスで工夫していった。 ・クラスの問題を学校全体の課題ととらえ協働体制で対応し、解決へ努力する。学級担任だけの負担としない。
高松市立 太田小学校	**○必要に応じたプロジェクトチームを組織する。** ・教育課程プロジェクト 次年度の教育課程編成に向けて、参画意識を持つ教員と管理職・主任等がプロジェクトを編成する。 （14年11月） 今年度の学校評価結果を考慮しながら、次年度の学校教育目標・児童像・学校課題等を協議し原案を作る。 （14年11月～1月） 全職員への周知と職員の検討・共通理解を図りながら、具体的な教育活動計画に着手する。 （15年1月～2月） ・行事関係のプロジェクト 太田っ子まつり・卒業式はプロジェクトチームを作り、協働体制で進める。	・主任から若年までの活力ある幅広い意見を採り上げることができた。 ・多様な意見を集約するのに時間がかかり、話し合いの時間の確保の難しさが残った。 ・学年や分掌等の立場の違う視点から、行事のあり方を考えることができた。
高松市立 一宮小学校	**○教職員に学校教育評価のアンケートを実施して、結果から次年度への課題に向けて検討するプロジェクトを編成する。** 重点項目についてのアンケート　　第1回7月　第2回12月 ・検討事項及びプロジェクト ・少人数学習、基礎基本の定着、人権・同和教育 ・生徒指導、道徳、特別活動　（1月末） ・教育課程（2月上旬） ・学校運営、学校行事（2月下旬） ・各プロジェクトから検討内容の発表 ・プロジェクトからの改善計画の提案（3月中旬）	・アンケート項目や結果を明確にしたため、活発な話し合いができた。 ・実施できる内容については2学期から変更して行うことができた。 ・内容の検討により次年度への改善の具体的な内容や計画素案が提案された。 ・本校の教育課題は何かをさらに検討してプロジェクトを編成する必要がある。
高松市立 檀紙小学校	**○担当制からチーム制へ移行する。** ・本年特に力を入れたい、重点的な案件に関しては、チーム制による企画・実施の方法を採用した。まず、基本方針を教育課程検討委員会・企画委員会で方向を決定し、運営委員会・現教推進委員会で組織作りを行う。その後の計画の立ち上げから、提案・推進をプロジェクトチームが請け負う。 例1（11月学習発表会） 「開かれた学校」、「核となる文化的行事」「秋のメイン行事」として計画。集会、参観、発表会などを集約し、地域にも広く公開する行事を計画。学校行事、児童会、集会、人権・同和教育、総合的な学習の時間の各担当、音楽専科等で現在取組んでいる。 例2（縦割り活動） 過去数年間、異学年交流の取組が弱いことが常に指摘されてきた。現在、主だった取組は、クラブ活動のみであり、活動を年間の様々な行事の中で広げることをチームを組んで計画中。 例3（地域との連携・御厩焼き窯プロジェクト） 地域の伝統的な産業であり、総合的な学習の時間において第3学年が学習材としている御厩焼きの伝統的な薪焚き平窯を築造する予定。これには、学校、PTA、地域、研究者からなるチームの立ち上げを予定。	・同一者の係が数年続くと、大きな見直しが少なく、固定化が起こりがちである。また、担当が変わると、とりあえず前任者の提案を継承することが多くなる。チーム制を取ると、時間はかかるが、深く掘り下げて、多方面からアプローチすることが可能になった。 ・三つの例は現在進行中の主だつたプランだが、このほかにも年度始めの提案を複数者で取り組むことが多くなった。 ・結果として、運営委員会・職員会が活性化し、過去数年ではもっとも新規の提案が増え、現状にそぐわない提案は改善案に変わってきている。 ・現在は、3月に指示をして、トップダウン方式で見直しの起点としているが、従来とは違った方法を経験することにより、今後の教師の仕事の仕方や質が変わることが期待される。
高松市立 十河小学校	**○教職員一人一人の個性や能力を考えた分掌配置、業務遂行を簡素化する。** ・学校運営の効率化、業務内容の明確化、一人一人の分担量の適正化を主たる目的として、教務部を3人で受け持ち、教育課程担当、PTA等外部担当、評価関係担当等に分担して、教職員の適材適所、職能的成長を考え（他の分掌もそうであるが）配置した。 ・各学期末、年度末には経営の評価を全職員で行い、教育課程・教育評価検討委員会をもって次年度の「特色ある学校づくり」のための検討を行う。 ・各分掌を日々の実践活動につなぐプロジェクトを組織化し、効率的に運営する	・教務部を三つに分けることで教務主任の職務内容が軽減されるとともに、それぞれの個性や能力に応じて分担したため、個々が意欲的に取り組み、活性化が図れた。 ・一人一人の教職員がそれぞれの分担のもと、テーマに沿つて幅広く考える力がついてき、共に学校課題解決に向けての実践活動がなされている。 ・一人が2～3の推進委員会を兼ねているが、効率化の面から、同時に委員会を開けるよう組織化を図る。

プロジェクトを組織した実践（小学校）

学校名	具体的な取組	成果や課題
高松市立 中央小学校	○教育課程実施の重点を明らかにし校務分掌に生かす。 ・細分化された分掌を指導の重点の視点からグループにし、分掌相互の関連を図る。 ・グループにしたものを部会としてまとめ、責任者を決め協議しながら職務を遂行する。 ●確かな学力定着部会 ●自主性・創造性の育成部会 ●心の教育の充実部会 ●教育環境の整備部会 ・現職教育とタイアップし、校内の会議の回数を減らし、実働する部会とする。 ・責任者を中心に学期に1回、また必要に応じて立案・計画・実施したものについて評価し、改善策を検討する。	・個々にしていた分掌を、学校経営の重点の視点から見直し、知恵を生かした教育活動が展開できる。 ・中期的な展望に立って校務を遂行しようとする意識が芽生えている。 ・内容面から、部会相互の調整が必要な場合がでてくる。 ・教職員一人一人の力量が大きく影響してくる。
琴平町立 琴平小学校	・全職員により学習・生活・体力のプロジェクトチームを編制し、月に一度よりよい方向をめざして積極的に話し合いの場をもつ。 ・問題行動の早期発見・早期対応と積極的な生徒指導につなげるため、地域モニター制を導入し、各分団の理事さんより子どもたちの地域での様子が早く学校に伝わるような仕組みをつくっている。	・プロジェクトチームは少人数なので、必要な時に、メンバーの都合さえつけばいつでも集まれるので、小回りがきいて場が持ちやすいようである。 ・地域モニター制の導入以来、子どもの登下校の様子だけでなく休日の遊び方についての情報も得られるようになり、対応が早くできるようになった。
観音寺市立 観音寺南小学校	**○学校の評価システムを改善する。** ・校内評価委員会を編成し、アンケート項目を検討する。 ・保護者・学校評議員・教職員へのアンケートを実施し、結果から課題を明確にする。 ・課題解決に向け、各分掌組織で改善策を検討する。 （・四指導部会、・校内研修プロジェクトチーム） ・各部令から改善策を提案・協議し、協働実践する。 **○全教職員で研究推進プロジェクトチームを編成する。** ・学校教育改善研究事業、学力向上フロンティア事業推進のために、全教職員によるプロジェクトチームを組織し、各担当領域で研究内容や方法、計画等を提案し、協働実践する。	・校内評価委員会では、学習指導の工夫による成果や子どもの生活面等、5項目についての保護者向けアンケート作成に向け、意欲的な話し合いができた。 ・学校教育目標達成をめざし、全教職員の創意を生かしたPDSにより、教職員の協働参画意識の高揚を図ることができた。 ・研究に対する共通理解が深まり、実践化への意欲が高まってきた。 ・勤務時間内での会の実施が難しかったので、校内研修の中にプロジェクトチームによる話し合いの場を位置づけた。
高瀬町立 上高瀬小学校	**○教育課程の改善に伴う研修組織を設置する。** ・少人数指導研修会 確かな学力を培う授業づくりをめざして、1年4年5年6年に少人数指導（少人数授業・TT授業）を導入している。 校長・教頭・教務・該当学年担任・少人数指導担当者による運営組織を設置し、授業改善と指導の充実に向けて、月1回の研修を行っている。 **○問題をもつ児童に対応する実践的事例研修組織を設置する。** ・いじめ・不登校対策委員会 学校には、児童を取り巻くさまざまな環境のなかでストレスを感じ、不適応症状を起こしている者やその前段階ともいえる予備軍的な状態の者などがいる。このような児童を早期に発見し、児童や家庭に対して適切な支援や教育相談活動をおこなうために、関係教職員による支援組織であるいじめ・不登校対策委員会を設置して実践的事例研修を行っている。	・少人数指導にかかわる成果や課題についての情報交換を行うことによって、児童の実態に応じた指導の充実と運営についての共通理解を深めている。 ・毎週月曜日に各学年の担任と少人数担当者による打ち合わせ会を位置づけることによって、打ち合わせ時間を確保することができている。 ・問題をもつ児童やその家庭環境、保護者との連携の状況などの情報交換を行うことによって、担任の抱える悩みなどの負担が軽減されるとともに、より一層、児童への理解を深め、全職員でかかわることができている。 ・必要に応じて、カウンセラーなどの専門家を招いて、事例に対する指導・助言などを得ている。
山本町立 河内小学校	**○学校課題の解決に向け．プロジェクトチームを編成する。** ・学習研究部 ・道徳研究部 ・特活研究部 各プロジェクトチームにおいて、MMPの趣旨を踏まえ、子どものセルフエスティームを高めるための取組（Ｐ－Ｄ－Ｓ）について検討・実施する。	・アンケートから学校課題がより明確になるとともに、取り組みの方向性が確認できた。 ・インフォーマルな時間と現教に位置付けられた時間とが有効に活用され、話し合いが深まった。
山本町立 神田小学校	**○知・徳・体のバランスのとれた教育を推進するために、3Hプロジェクトチームを設置する。** ・本校の教育目標「人や自然を愛し共に生きる、たくましい子どもの育成」の具現化をはかるため、ヘッド（知育）、ハート（徳育）、ヘルス（健康・体育）の3Hプロジェクトチームを構成して、平成14年度から研究を進めている。 ・管理職以外の教員10名を3チームに校務分掌から分けて、月1回の定例会（3指導部会）をもち、時代の変化に対応できるよう、常に新しいアイデアを創造し、実践する。	・社会のニーズが学力に傾きかけているので、「知」だけに教育がかたよらないように、各部長と管理職で企画委員会を組織し、調整している。

プロジェクトを組織した実践（小学校）

学校名	具体的な取組	成果や課題
大野原町立 大野原小学校	**○校務分掌を専門指導部に分類して、計画・実践・評価に取り組む。** ①学習指導部 　学習態度の育成担当　基礎学力の向上担当　図書館指導担当　表現力の育成担当　校内掲示担当　人権教育担当 ②生徒指導部 　児童会担当　集会活動担当　委員会活動担当　クラブ活動担当　安全指導担当　清掃指導担当　栽培活動担当　ボランティア活動担当 ③保体指導部 　体力つくり担当　体育検定担当　クラスマッチ担当　保健指導担当　給食指導担当	・年間の指導部目標を設定し、それを受けて各担当がそれぞれの実践目標を掲げて取り組む体制が効果的である。 ・各専門指導部で、毎月の指導目標を掲げて実践し、月末の指導部会で反省・評価し、翌月の実践へとつなげていく制度が効果がある。 ・年度末の学校経営の評価についても、指導部単位に評価項目を設定し、全職員で評価を行った後、各指導部で集約し、次年度の取り組みに生かしている。 ・各指導部から取り組みの方法として出されるチェックカードや強調期間の連絡・調整を企画委員会において十分に行うことが大切である。
大野原町立 五郷小学校	**○現状の変化や問題の発生状況に応じて、随時に委員会や問題解決チームを組織する。** ・ある学級で生徒指導上の問題が発生したため、生徒指導委員会で問題の原因や今後の対策を検討。その後、3人のサポートチームを形成して、担任支援にあたった。校務分掌組織は1年間固定的で臨機応変な対応ができない場合がある。今後も随時に結成して短期間で問題解決をして解散するチーム編成により、組織に機動力を持たせたい。 ・外部評価について検討・実施する新たな校務分掌上の組織を作った。（15年度）	・固定的でない組織（チーム）なので、臨機応変に対応できる。問題が明確で目的意識がはっきりしているため、的確で集中的な対応ができ、効果があがった。ただ、チームが動いている期間の関係者への負担は大きくなる。
詫間町立 大浜小学校	**○学校課題解決に向け、校内分掌の見直しと改革を図る。** ・教育課題に対応した組織の編成 　平成14年度は、学習指導に関して、前年度を継続発展することを主な目的とする「食の教育推進グループ」と本校が本年度特に力を入れたい課題である「基礎学力充実推進グループ」を編成。各グループが協議・提案をして学校全体の学習指導の充実を図るようにした。 　平成15年度は、さらに次年度発表の研究指定を考慮に入れ、研究グループを「基礎学力充実推進グループ、「道徳教育推進グループ」、英語活動推進グループの3つとした。 **○校内サポート体制のシステムを組織し、機能させる。** ・不登校傾向の見られる児童や、心的に不安定な様子が見られる子どもをサポートするための校内支援チームを組織し、家庭との連携を図りながら指導に当たるようにした。	・全員がいずれかのグループに所属し、授業公開をもとに具体的に取り組みの方向を協議するようにしたので、学校課題に対して、共通理解をしながら研究を推進することができた。 ・担任と養護教諭、校長、教頭が支援チームを組み、サポートの具体的方法を協議しながら支援を進めた。その結果、問題をもつ子どもの指導について、担任一人が抱え込まずに、職員みんなで解決していこうとする気運や、家庭と学校の協力体制が整ってきた。

プロジェクトを組織した実践（中学校）

学校名	具体的な取組	成果や課題
土庄町立 土庄中学校	**○総合推進委員会を設置する。** ・道徳、特別活動、総合学習、学校行事について、関連させて計画を立てることにより関連性のある系統だった取組をするため、総合推進委員会を設置し、年間計画等の作成にあたった。また、ファイルを作成して3年間の取組が分かるよう資料を残していくことにした。 **○取組の精選から組織の整理統合を図る。** ・新たに少人数授業担当と総合学習担当を設置したので、環境教育と国際理解教育を総合学習に整理統合した。	・学校での教育活動がお互いに関連をもちながらなされるようになるので、系統だった取組ができるようになる。 ・総合学習の中で、環境教育や国際理解教育への取組をどのように位置付けていくかを検討する。
土庄町立 豊島中学校	**○不登校傾向生徒対応プロジェクトを組織する。** ・基本的には全職員で関わるようにしているが、より機動性を発揮するために学級担任、副担任、養護助教諭、学力向上支援教員の4人でプロジェクトチームを組んで対応している。校長の指導のもと、4人での取組を常に全職員に知らせ共通理解、共通実践を図っている。	・休んだ場合の家庭訪問、保護者への連絡等の対応が迅速にでき、途中からの登校を促すことができる。 ・生徒との人間関係の強さが4人の中でより強く構築できた職員が気軽に対応でき、一つの切り込み口になる。
綾上町立 綾上中学校	・本校の教育課題や様々な教育改革に対応するために、昨年度10月より三つのプロジェクトを立ち上げ全教員参加し、改善・改革案を作り本年度から実践している。 ①教育課程プロジェクト 　日課・定期テスト・学校行事等の見直し、ノーチャイムの実施、総合的な学習の時間・選択教科のあり方などを中心に取組んでいる。 ②学校評価プロジェクト 　開かれた学校づくりの具現化を図るための学校・学年団だより、町のホームページ、広報誌への掲載、保護者・学校評議員を対象に学校評価の実施・集計・学校開放日などの規格・運営を行っている。 ③生徒会プロジェクト 　たくましく生きる生徒、主体的に活動する生徒の育成のため生徒会として実行委員会削減、生徒会行事の見直し（新入生歓迎会、運動会）ボランティア活動の推進を図っている。その他、今年度から「朝の読書」を全校生徒を対象に実践している。	・教員一人一人の参画意識や自覚。責任感が高まったように思われる。 ・ノーチャイムに関する生徒アンケートでは、違和感なく好意的に受け止めている。 ・保護者の多くがインターネットを利用しており、PTA総会役員会での説明後、反応や期待が大きかった。学校のホームページの定期更新が課題である。 ・保護者・地域との連携による具体的ボランティア活動を検討している。 ・国語科教員が中心になり生徒・教師への感想やアンケートを実施して成果や課題を考察していく。
綾歌町立 綾歌中学校	**○新しい課題に対応したプロジェクトを新設する。** ・新教育課程実施の前に教育課程プロジェクト、総合的な学習プロジェクト等を新設し、新教育課程の骨組みを作成し、職員会へ提案した。 **○新しい課題に対応した校務分掌を新設する。** ・「研究部」の中に初任者・若年研修担当を新設し、特に新採教員への指導を担当する。 ・生徒指導部の中に学校生活支援担当を新設し、学校教育指導員、スクールカウンセラー、適応指導教室職員等との連携を密に 　する。 ・地域に開かれた学校運営をすすめるねらいで、管理部の中に「広報担当」を新設する。保護者や地域への広報活動として、主に学校便りの紙面づくりや発行を担当する。	・職員の約半数がいずれかのプロジェクトに参加し、意欲的な話し合いができ、学校運営への参画意識が高まった。 ・初任者が先輩教員からの指導を受けやすくなってきた。
琴南町立 琴南中学校	**○学校課題解決に向けて、全職員は参加する学校改善プロジェクトを編成する。** ・Ｓ→生徒・保護者・学校評議委員・教職員へのアンケート結果から、次年度に解決すべき諸問題を明らかにする。 　（１月～３月） 　諸問題解決のためのプロジェクトを編成する。（４月） ＊教育課程部会　＊評価部会　＊学習指導部会　＊生徒活動部会 ・Ｐ→各プロジェクトで改善計画検討、提案する。（４月） ・Ｄ→全職員共通理解のもと、実践に取り組む。 　（４月～１２月）	・アンケート集計結果から、改善された具体的なプランが提案された。 ・全職員の創意を生かし、協働参画意識を促すＰ→Ｄ→Ｓをめざして、教員の希望によるプロジェクト参加により、意欲的な話し合いができた。 ・相談時間の確保のため、プロジェクトごとの声かけで、インフォーマルな時間を活用した協議ができた。 ・年間を通じて各プロジェクトが推進役となって課題解決を図ることで、突発的な問題についても円滑に対処できた。
観音寺市立 伊吹中学校	**○早急に様々な課題解決を図るため、また、発達段階に応じた適切な指導を行うため、各分掌の責任者をキャップとするプロジェクト委員会を組織した。** ・メンバーはできる限り少人数とするとともに、可能な範囲で週時程に位置づけ、その効率的な運営を目指した。 プロジェクト委員会等 ・人権・同和教育推進（月曜日6校時） ・基礎学力推進（火曜日6校時） ・総合学習推進（水曜日1校時） ・生徒指導推進（木曜日放課後） ・健康教育推進（木曜日放課後） ・企画委員会（金曜日放課後）	・少人数とすることにより、協働参画意識が高まり、目標達成に向けての意欲化が図れた。 ・プロジェクト委員会を定例化することにより、計画的に取り組めた。 ・企画立案についてプロジェクト委員会で十分検討されたため、職員会での共通理解・共通行動がスムースに図れた。